

企画・執筆者紹介 (五十音順)

相澤 出 あいざわ・いずる

医療法入社団爽秋会

1973年生まれ。2002年東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。2002年より東北福祉大兼任講師、2005年より青森公立大兼任講師。同年より医療法入社団爽秋会(岡部医院)研究員。

専門は在宅緩和ケア・地域医療・地域福祉の社会学的研究。その他、農村社会学、宗教社会学。これまでの著作に、「自宅での看取りとそのサファリングの諸相——サファリングの創造性と絆の継承の視点から」浮ヶ谷幸代編『普悩とケアの人類学 サファリングは創造性の源泉になりうるか?』(世界思想社。194-225頁、2015年)。

明智龍男 あけち・たつお

名古屋市立大学医学研究科精神・認知・行動医学分野 教授

1964年広島市生まれ。1991年広島大学医学部卒。日本医科大学附属病院高度救命救急センター、国立呉病院・中国地方がんセンター、1994年広島市民病院精神科を経て、1995年から国立がんセンター中央病院・東病院精神科・精神腫瘍学研究部。2004年名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 助教授、2009年名古屋市立大学病院緩和ケア部部長(併任)を経て、2011年より現職。

専門はコンサルテーション・リエゾン精神医学、精神腫瘍学、気分障害、がん患者に対する心理社会的介入。これまでの著作に『がんところのケア』(NHK出版、2003)など。

飯泉 桜 いいずみ・さくら

国立がん研究センター中央病院 正規レジデント

1988年茨城県生まれ。2013年慶應義塾大学医学部卒。独立行政法人国立病院機構埼玉病院研修医を経て2015年より現職。専門は腫瘍内科学。「将来は抗がん剤の臨床開発に関わりたいと思っています。」

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科

1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。北海道大学医学部客員研究員、病理専門医、臨床検査管理医。

Twitter:@Dr_yandel

伊藤嘉高 いたう・ひろたか

1980年愛知県生まれ。2007年東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。マカオ大学社会科学人文学院研究員などを経て、2008年山形大学大学院医学系研究科助教、2014年7月より現職。専門は医療社会学、都市社会学。これまでの著作に、『東日本大震災と被災・避難の生活記録』(共著、六花出版、2015年)。『交響する空間と場所Ⅱ——創られた都市空間』(共著、法政大学出版局、2015年)など。

冲中敬二 おきな・けいじ

国立がん研究センター東病院・中央病院 総合内科・造血幹細胞移植科

1975年8月5日生まれ。2000年浜松医科大学卒。浜松医科大学医学部附属病院、聖隷浜松病院、袋井市民病院での研修を経て2008年、静岡がんセンター感染症内科専攻修練医。2011年国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科専門修練医。同年10月より総合内科医員併任。2015年9月より現職。専門はがん患者の感染症。

奥山浩之 おくやま・ひろゆき

香川大学医学部附属病院腫瘍センター 助教

2004年香川大学医学部医学科卒業。2015年、同 大学院医学系研究科修了博士(医学)取得。2004年、香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター研修医を経て、2006年、同 総合診療部医員。2010年、国立がん研究センター東病院 肝胆脾内科レジデント。2013年、同 肝胆脾内科 がん専門修練医。2015年より現職。専門は消化器がんをはじめとする各種がんの化学療法。

勝俣範之 かつまた・のりゆき

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 教授 外来化学療法室 室長

1963年山梨県生まれ。1988年富山医大卒。徳州会病院での研修を経て1992年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医、第一領域外来部乳腺科医員を経て2003年、同薬物療法部薬物療法室医長。2004年ハーバード大学公衆衛生院留学。2010年、国立がん研究センター中央病院乳腺科・腫瘍内科外来医長、2011年より現職。専門は腫瘍内科学、がん支持療法。

これまでの著作に、『がん診療レジデントマニュアル』(医学書院、初版～第5版)、『誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』(メジカルビュー社、2015年)、『がん治療まるわかりBOOK』(照林社、2015年)、『「抗がん剤は効かない」の罪』(毎日新聞社、2014年)など。

門脇重憲 かどわき・しげのり

愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部 医長

1973年6月三重県生まれ。1999年三重大学医学部卒。同大学内科学第二講座(血液・腫瘍内科)入局。2002年、三重大学医学部大学院医学研究科。2006年、国立がん研究センター東病院消化管内科レジデント。2009年埼玉県立がんセンター消化器内科。2012年より現職。専門は腫瘍内科(特に消化管腫瘍、頭頸部腫瘍)。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科

先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野

1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(特にがん免疫療法)。

これまでの著作に、Markers for anti-cytotoxic T-lymphocyte antigen 4 (CTLA-4) therapy in melanoma. Molecular Diagnostics for Melanoma. Methods in Molecular Biology. Springer Science. 1102:83-95.2014

金 容 壹 きむ・よんいる

淀川キリスト教病院 腫瘍内科 副部長

1999年北大医学部卒。2003年国立がん研究センター東病院レジデント、06年より聖隷浜松病院へ。乳腺科、緩和医療科を経て10年より化学療法科。がん薬物療法専門医・指導医(日本臨床腫瘍学会)。共訳著に『がんサバイバー——医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす』(医学書院、2012年)。

楠本壮二郎 くすもと・そうじろう

昭和大学病院 腫瘍内科

1976年生まれ。神奈川県出身。2003年昭和大学医学部卒、同年昭和大学医学部第一内科学講座に入局。2007年昭和大学大学院医学研究科第一内科学修了。その後、昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門、山梨赤十字病院内科・呼吸器科副部長を経て、2013年より現職。専門は腫瘍内科学、呼吸器内科学。昭和大学剣道部OB 剣道五段。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長

1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒業。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本癌学会・日本臨床腫瘍学会・日本肺癌学会評議員。これまでの著書に里見清一名義で『偽善の医療』(2009年)、『衆愚の病理』(2013年)、『医師の一分』(2015年、すべて新潮新書)、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』(中外医学社、2011年)など多数。

河野 勤 こうの・つとむ

公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科/化学療法部

1970年大阪府生まれ。1996年名古屋大学卒。愛知県厚生連海南病院での研修を経て2000年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医を経て2005年乳腺・腫瘍内科医員。2008年日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得。2010年、杏雲堂病院 腫瘍内科医長。2013年より同院腫瘍内科科長、2014年より同院化学療法部部長兼務。専門は腫瘍内科学、緩和医療学。

坂井大介 さかい・だいすけ

大阪大学大学院医学系研究科 先進癌薬物療法開発学寄附講座 助教

1976年大阪府生まれ奈良県育ち。2002年 大阪大学卒業。2002年 大阪大学医学部附属病院、2003年 呉医療センターにて内科研修。2005年 国立がんセンター中央病院 内科レジデント。2008年 大阪府立成人病センター 臨床腫瘍科 兼心療・緩和科。2011年 大阪大学大学院医学系研究科 消化器癌先進化学療法開発学寄附講座 医員、2014年 同 寄附講座助教、2016年より現職。専門は消化器がん化学療法(消化管および肝胆膵)。「新臨床腫瘍学 改訂第4版」(南江堂、2015年)、『ガイドラインに沿った大腸癌化学療法の要点と盲点 (Knack & pitfalls)』(文光堂、2014年)、『ガイドラインには載っていない 消化管がん Practical Treatment』(メジカルビュー社、2014年)『消化器がん化学療法 副作用マネジメント プロのコツ』(メジカルビュー社、2014年)、『胃がん診療と化学療法—オンコロジストはこう治療している 改訂第3版』(ヴェンメディカル、2012年)などに執筆者として参加。

桜井なおみ さくらい・なおみ

特定非営利活動法人HOPEプロジェクト 理事長

1967年東京都生まれ。大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にてまちづくりや環境学習などの仕事に従事。2004年に乳がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始し、現在にいたる。ほかに、一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役社長。技術士(建築部門)。これまでの著作(共著)に『がんと一緒に働こう—必携CSRハンドブック』(合同出版、2010年)、『がん経験者のための就活ブッケーサバイバーズ・ハローワーク』(合同出版、2015年)、『希望の言葉を贈りあおう』(静流出版、2010年)、『薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム』(羊土社、2011年)、『がん放射線治療』(学研メディカル秀潤社、2011年)など多数。

佐々木康綱 ささき・やすつな

昭和大学医学部内科学講座 腫瘍内科学部門 教授

昭和大学腫瘍分子生物学研究所 所長

昭和大学病院 腫瘍センター センター長、同病院腫瘍内科 診療科長

長野県出身。1980年昭和大学医学部卒業、国立がんセンター中央病院、米国Maryland州立大がんセンター客員研究員、国立がんセンター東病院化学療法科医長、埼玉医科大学腫瘍内科教授を経て、2012年より現職。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授

同附属病院 臨床腫瘍センター センター長

放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長

1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学(スウェーデン)、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター(米国)、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科臨床的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。

これまでの著作に『内科学 第10版』(朝倉書店、2013年)、『新臨床腫瘍学』(南江堂、2015年)、『最新 内分泌代謝学』(診断と治療社、2013年)など。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員

1973年埼玉県生まれ。2012年ルーテル学院大学大学院博士前期課程修了。現在同大学院博士後期課程在学中。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ち温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。

これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』(医学書院、2015年)など。

下井辰徳 しもい・たつり

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科医員

1982年長野県生まれ。2007年岐阜大学卒。卒業後はがん・感染症センター都立駒込病院で初期研修・後期研修を行ない、内科一般、がん診療の基礎を学ぶ。2013年より国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科チーフレジデント(24期がん専門修練医)。2015年4月より現職。

資格:日本内科学会 総合内科専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医

専門は乳癌、婦人科がん、希少がんをはじめとする腫瘍内科一般、がん患者の緩和ケア、がん支持療法。

新聞秀一 しんま・しゅういち

大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 准教授

1978年埼玉県生まれ。2007年総合研究大学院大学生命科学研究科卒。博士(理学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2008年大阪大学科学教育機器リノベーションセンター特任研究員、2010年大阪大学産学連携本部特任助教、2012年国立がん研究センター研究所 研究員、2015年より現職。専門は分析化学、特に質量分析装置開発とイメージング質量分析を含む応用。

これまでの著作に『見つめる、量る、可視化する!質量分析実験ガイド』(羊土社、2013年)など。研究室ブログ「メタボロミクスの華麗なる一族」(URLは<http://bit.ly/1ijV46T>)にて研究室の生活を綴っている。メールアドレスはsshimma@bio.eng.osaka-u.ac.jp

「双方にとってWin-Winの共同研究を今後展開していきたいと考えています。」

竹田 扇 たけだ・せん

山梨大学大学院総合研究部 解剖学講座細胞生物学教室 教授

1968年北海道生まれ。1992年旭川医科大学卒業。東京大学大学院に進み、1995年同大学医学部助手、2004年同助教授を経て、2006年より現職。専門は細胞生物学で繊毛の基礎生物学を中心に展開する。また山梨大異動後は医工融合研究にも着手し、工学部、島津製作所とともにがん診断支援装置の開発を行っている。その他、生命倫理、医学史の研究もテーマのひとつ。

これまでの著作にSpecial Issue on Cilia. (Elsevier, 2012)、『生命倫理の源流』(岩波書店、2014年)など。

辻 晃仁 つじ・あきひと

香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授。同附属病院 腫瘍センター長、腫瘍内科科長。

1990年岡山大学医学部医学科卒業。1994年同大学院医学研究科修了、博士(医学)取得。1991年寺岡病院内科を経て1994年広島厚生連府中総合病院内科勤務。1995年高知県立中央病院(現・高知医療センター)消化器科、1997年同 消化器科副医長、1997年同 内科副医長、2000年同 内科医長、2002年同消化器科医長兼務。2005年高知医療センター腫瘍内科 科長、消化器科医長兼務。2011年神戸市立医療センター中央市民病院 腫瘍内科部長。2015年より現職。専門は、消化器がんをはじめとする各種がんの化学療法、チーム医療、外来化学療法、医療連携。

これまでの著作(共著)に『はじめてのがん化学療法看護』(メディカ出版、2016年)、『がん化学療法看護 35レジメン別投与管理チェック帳』(日経研出版、2015年)など。

友松純一 ともまつ・じゅんいち

がん研究会有明病院 総合腫瘍科 副医長

1972年11月27日生まれ。1999年順天堂大学医学部卒業。同大学付属順天堂医院内科にて臨床研修終了後、同大学医学部内科科学教室血液学講座、医学部附属浦安病院を経て、順天堂大学大学院医学研究科を修了。その後は国立がん研究センター中央病院、順天堂大学医学部悪性腫瘍科学研究室を経て、現職に至る。

長島文夫 ながしま・ふみお

杏林大学医学部内科科学腫瘍内科 准教授

1965年生まれ。1991年東北大学医学部卒。1998年東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野修了、並行して東北大学加齢医学研究所にてDNA修復について研究。1998年国立がんセンター東病院内視鏡部消化器科医員、2002年埼玉医科大学臨床腫瘍科講師。2005年南カリフォルニア大学癌センターリサーチフェローとして留学。2007年埼玉医科大学国際医療センター臨床腫瘍科講師復職し、2009年より、現職。専門領域は、腫瘍内科学、消化器内科学、臨床薬理学。高齢者のがん治療についての研究を行っており、高齢者総合的機能評価(Comprehensive Geriatric Assessment:CGA)を活用し、QOLに配慮した抗がん剤新規投与法の開発について検討している。更に、国立がん研究センター社会と健康研究センターと情報共有を行ないながら、杏林大学CCRC研究所において、「がんを背景に持つ高齢者」を包括的に捉える研究を進め、医療・介護への実践、更には関連する領域の積極的な人材教育について模索中。

中島貴子 なかじま・たかこ

聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座 教授

1971年東京・下町生まれ。1998年横浜市立大学医学部卒。大森赤十字病院での研修、神奈川県立足柄上病院内科を経て、2002年国立がん研究センター中央病院レジデント。その後、同センター中央病院がん専門修練医、同センター東病院リサーチレジデントを経て、2007年、同センター中央病院消化器内科・外来化学療法科医員。2010年、聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学講座講師、2012年准教授、2016年より現職。専門は腫瘍内科学、消化器がん化学療法、がん支持療法、トランスレーショナル・リサーチ。

これまでの著作(共著)に『がん外来化学療法マニュアル』(南江堂、2009年)、『チャートでわかる!がん外来化学療法のリアル〜チームで解決する18の副作用』(南江堂、2014年)。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 准教授

1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』(青土社、2010年)など。

林 直美 はやし・なおみ

公立陶生病院 外科

1979年、名古屋生まれ。2004年大阪医大卒。大阪府済生会中津病院で臨床研修および外科研修を終え2007年名古屋大学消化器外科入局。関連病院で研修したのち2012年名古屋大学大学院消化器外科学に入学し、うち1年、同大学化学療法部で研修を受けた。2016年博士号を取得し、4月から現病院勤務。専門は消化器がん化学療法。

平野 勉 ひらの・つとむ

1980年昭和大学医学部卒。トロント大学医学部・生理学部、内分泌代謝科研究員を経て、1987年、昭和大学第一内科助手となる。その後、板橋中央総合病院にて勤務の後、1995年に昭和大学第一内科講師、1999年同准教授、2006年より同教授(員外)。2008年からは、同大学糖尿病・代謝・内分泌内科診療科長となり、2012年より同教授。専門は動脈硬化、脂質代謝。
著書には、『もっと糖尿病に効くカンタン体操』(洋泉社)、『健康診断でコレステロールが高めの人が読む本』(幻冬舎)。

藤田健一 ふじた・けんいち

1963年埼玉県生まれ。1986年東北大学工学部卒、1996年北海道大学薬学部卒(学士入学)。
1986年川崎製鉄株式会社 エンジニア、1996年北海道大学大学院薬学研究科代謝分析学分野 助手、2002年宮崎大学医学部附属病院薬剤部、2003年同治療管理室長、2004年埼玉医科大学 腫瘍内科 助教、2008年St. Jude Children's Research Hospital留学、2010年同専任講師、2013年昭和大学腫瘍分子生物学研究所 准教授、2015年、同教授。専門は、抗がん薬のトランスレショナリサーチ、薬物代謝学、薬物動態学、薬理遺伝学。これまでの著作に、「腎機能障害患者における肝消失型抗がん薬の特異な体内動態について」(『ファルマシア』50:300-304) 2014年、『抗悪性腫瘍薬コンサルトブック ～薬理学的特性に基づいた科学的治療～(改訂第2版)(南博信編、南江堂』(in press) 2016年(予定)。 Ken-ichi Fujita et al: Increased plasma concentrations of unbound SN-38, the active metabolite of irinotecan, in cancer patients with severe renal failure. Pharm. Res. 33:269-282 (2016).など多数

堀江良樹 ほりえ・よしき

聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍内科医長、診療記録管理室副室長
専門は腫瘍内科・消化器がん。日本内科学会認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。

前嶋愛子 まえば・あいこ

国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科
1979年東京都生まれ。2002年東京大学教養学部総合社会科学科卒。毎日新聞社記者を経て、東京大学大学院総合文化研究科で医療政策史・医療社会学を研究。修士課程修了後、2005年に群馬大学医学部へ編入学。その後2009年東京大学医学部附属病院初期研究医、2011年国立がん研究センター中央病院内科レジデント、2013年同がん専門修練医。がん薬物療法・緩和ケアを専門とし、泌尿器腫瘍や軟部肉腫、希少がんのフィールドで真に患者さんに役立つ医療の実践を目指している。

松本 寛 まつもと・ひろし

がん・感染症センター都立駒込病院外科 医長
1969年大阪府生まれ。1994年奈良県立医科大学卒。同附属病院第一外科研究医。1996年服部記念病院外科、1997年がん感染症センター都立駒込病院専門臨床研修医を経て、2000年奈良県立医科大学附属病院第一外科を経て2003年よりがん感染症センター都立駒込病院外科勤務。2005年より現職。専門は消化器外科(大腸専門)、大腸がん化学療法。
これまでの著作に「一次治療としてsLV5FU2/Cape+Bmab療法を行う症例とは? 二次治療以降をどうする?」(『Knack & Pitfallsガイドラインに沿った大腸癌化学療法の要点と盲点』文光堂、2014年)、「強力な治療が適応となる症例(初回VEGF阻害薬投与例)」(臨床腫瘍プラクティズ12:57-61, 2016)、「同時性肝転移に対する治療戦略のcontroversy」(臨床外科71:464-467, 2016)。

村井美知子 むらい・みちこ

聖路加国際病院 乳腺外科
1982年青森県生まれ。2006年筑波大卒。浦添総合病院での初期研修・外科後期研修を経て、2012年より聖路加国際病院乳腺外科にて研修中。専門は乳腺外科。外科学会専門医・乳癌学会認定医・マンモグラフィ読影認定医。

森 玄 もり・たかし

練馬光が丘病院 薬剤室
1973年京都生まれ。1997年明治薬科大学卒。2003年山王メディカルプラザ薬剤室において化学療法に携わる。2005年国際医療福祉大学附属三田病院 薬剤部、2009年香雲堂病院 化学療法部などを経て、2014年より現職。また、2007年よりNPO法人 がん情報局 事務局長を務める。専門は乳がん化学療法。

山内照夫 やまうち・てるお

1964年鹿児島県生まれ。1988年鹿児島大学医学部卒。聖路加国際病院内科研修後、1992年から国内外で研究に従事。2001年からハワイ大学内科レジデント・チーフレジデントの後、2005年ホノルルでプライマリケア医。2006年モフィットがんセンター血液・腫瘍内科フェロー。2009年聖路加国際病院腫瘍内科医長、オンコロジーセンター長。2010年より現職。
専門は腫瘍内科学、がん薬物療法、がん支持療法。

山内英子 やまうち・ひでこ

聖路加国際病院 プレストセンター 乳腺外科 プレストセンター長
1963年東京都生まれ。1987年順天堂大学医学部卒。聖路加国際病院外科レジデントを経て、1994年渡米、Dana-Farbar癌研究所研究助手、1996年Georgetown大学Lonbardi癌センターでリサーチフェロー／助手。2001年ハワイ大学にて外科チーフレジデント、外科集中治療学臨床フェロー。2007年Moffitt癌センターにて臨床、研究。2010年より現職。米国外科学集中治療専門医、米国外科認定医。専門は乳腺外科。患者に寄り添う診療をめざしている。
これまでの著作に、『あなたらしく生きる』(日本キリスト教団出版局、2015年)、『実践がんサバイバーシップ』(医学書院、2014年)など。

山本剛史 やまもと・たけし

1977年、ニューヨーク州バッファロー生まれ。1996年愛知県立時習館高等学校卒業。2003年昭和大学医学部卒業。昭和大学第一内科に入局、入局後肺癌担当の病棟班に配属され、化学療法について学ぶこともあった。その後、山梨赤十字病院などの勤務を経て、現在、昭和大学糖尿病代謝内分泌内科助教として勤務中。専門は糖尿病を中心とした生活習慣病一般。特にインクレチン関連薬についての臨床研究をおこなっている。これまでの著作に、『糖尿病看護ビジュアルナーシング 特殊な病態⑥ステロイド糖尿病』(学研メディカル秀潤社、2015年)、『もう手放さない!GLP-1受容体作動薬 5.他の経口薬との併用、切り替え』(フジメディカル出版、2013年)など。

渡部一宏 わたなべ・かずひろ

昭和薬科大学 臨床薬学教育研究センター
1971年福島県生まれ。1995年昭和薬科大学卒。1997年昭和薬科大学大学院薬学研究科修士課程修了後、財団法人聖路加国際病院薬剤部入職、薬剤師として勤務。2008年には、共立薬科大学大学院薬学研究科博士課程後期修了(博士(薬学))。2009年から昭和薬科大学医療薬学教育研究センター講師となり、2013年より同センター准教授、2016年4月から現職(組織改編に伴う所属名変更)。専門は、臨床薬学、臨床疫学。趣味は、人と集うこと